



■ましば・たすく 1991年香川医大(現香川大医学部)卒。新潟大・米インディアナ大留学。香川大医学部付属病院を経て、2021年から現職。人工関節単顆置換術の施行実績は全国トップクラス。日本関節鏡・膝・スポーツ学会評議員、日本骨粗鬆症学会評議員。高松市出身。55歳。

特徴で、通常、手術翌日には歩行練習を始められる。

比較的大きく合併症の可能性がやや高いことや、正座が

人工の膝関節に置換する手術は、変形性膝関節症などの疾患に有効な治療とされる。適切な治療を受けることで、若い時から親しんできたスポーツを楽しむ人もいる。治療法や注意点などについて、県済生会病院副院長で整形外科の真柴賛医師に聞いた。

人工膝関節の適応となる疾患は。

関節の2大疾患である変形性膝関節症や関節リウマチのほか、膝骨壊死が主な適応疾患となる。抗リウマチ薬の進歩によって、関節リウマチに対する人工膝関節の症例は減少傾向だが、高齢化に伴って変形性膝関節症と膝骨壊死による症例は近年、増加している。

人工膝関節

治療法やその特徴は。膝関節の表面全てを置換する人工膝関節全置換術(TKA)と、内側か外側のいずれかを部分置換する人工膝単顆置換術(UKA)。

期待できないことなどに注意が必要となる。UKAはどうか。障害が膝の一部分に限定

手術後もスポーツ可能

耐摩耗性向上、心身の健康に

に分けられる。TKAは国内で年間10万件ほど行われている標準的な手術で、変形を矯正して脚をまっすぐにしたり、曲がって伸びない膝も伸ばしたりできる。

30年程度の耐久性が見込まれるものの、手術侵襲が比較、術後の回復が早いもの

死に對して行う。インプラントの部品が長寿命化したことなどから、UKAを選

人工膝関節を入れた後もスポーツを楽しむ人がいる。

一般的に衝撃性が少なく、手術前に経験したことのあるスポーツが許可されている。以前は、挿入した

人工関節をすり減らさずに長持ちさせるためには運動しない方が良いという意見が多くあった。しかし最近では、人工関節の耐摩耗性能が大幅に向上したことで、筋力維持のためにダンスや卓球、水泳、ゴルフ、自転車、ハイキングなどの衝撃を伴わないスポーツ活動は、むしろ推奨されるようになってきた。

術後にスポーツをするメリットや注意点は。

心と体の健康が不可欠で、膝関節だけでなく、全身の健康がある程度保たれているうちに手術を受けることも重要となる。早い段階で手術する方が、小さい手術侵襲で済むだけでなく、安全に手術できる。今後は好きなスポーツを長く楽しむために、膝の人工関節を受ける患者も増えてくると考える。

■ 当院での特徴を。

約3千件の人工膝関節の経験に基づいたノウハウの蓄積があり、中でも、UKAの経験数は全国トップレベルだと自負している。手術操作をできるだけシンプルにして必要なことだけを最低限の侵襲で、安全に短時間で行うことを基本コンセプトとしている。また、インプラントメーカー指定の手術見学施設の役割もあり、専門性の高い手術治療が提供できる。

手術後に行ってもよいスポーツ

行ってもよい

- ・ボウリング
- ・ゴルフ
- ・ダンス
- ・ウォーキング
- ・水泳

など

十分注意して行うべき (※経験があること)

- ・サイクリング(屋外)
- ・カヌー
- ・ハイキング
- ・テニス(ダブルス)
- ・ウェイトマシーン

など

行ってはいけない

- ・ロッククライミング
- ・サッカー
- ・バレーボール
- ・器械体操
- ・バスケットボール

など

■ 県済生会病院整形外科

常勤医5人で診療に当たる。指の人工関節手術など手の外科に加え、肩関節外科、スポーツ障害の専門的な診療などにも対応している。

所在地：高松市多肥上町1331-1

電話：087 (868) 1551

<https://www.saiseikai-kagawa.jp/>